

# 全国協議会 ニュース

2014年1月1日発行 第259号

発行所 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4 KTビル3F TEL.(03)5823-6360 FAX.(03)5823-6365 発行責任者:野村正満 http://www.marrow.or.jp/ E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座 00150-4-15754 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

## 新法施行元年を迎えて

2014年が明けました。本年は「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の「施行元年」となります。私たちが全国のボランティアが望んできた形とは異なるとはいえず、公的骨髄バンク事業のスタートが当時の厚生省保健医療局長通知だけだったことを考えると、法的根拠が整ったという意味で、まさに隔世の感があります。とりわけ、日本赤十字社の役割が大きな注目を集めており、3年後の新法見直しを見据えて「あるべき姿」を志向しつづけたものです。会長、理事長、そして関係機関のトップに年頭のごあいさつをちょうだいしました。

### 6月の集い楽しみ

全国骨髄バンク推進連絡協議会 会長 仲田順和



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年7月に会長に就任してか

### 各地の協力を感謝

厚生労働省健康局疾病対策課 移植医療対策推進室長 泉潤一

謹んで新年のお祝いを申し上げます。骨髄バンク事業は平成3年に開始されて以来、皆様の御尽力を賜り、毎年多くの方にドナー登録者になっていただき、骨髄バンクを介して行われた骨髄移植は累計で1万6000例を超えました。

これはひとえに、全国各地で骨髄バンク事業を支えてくださるボランティアの皆様方や関係者の方々の御理解、御支援の賜物であり、この場をお借りいたしまして深く感謝を申し上げます。

こうして皆様の長年の取り組みを背景に平成24年9月に成立



「仲田順和会長揮毫「絆」

### 課題の解決へ精進

理事長 野村正満



あけましておめでとうござい

本年6月末をもって一時休止になることから、厳しい環境が予想されますが、今後も、一人でも多くの患者さんが骨髄または末梢血幹細胞移植を受けられるよう、①ドナー登録者の増加と②患者登録から移植までのコ

### 適切な提供推進へ

日本赤十字社 血液事業本部長 西本 至



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年9月に成立した「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が本年1月1日から施行され

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が本年1月1日に施行となり、申請準備を進めております。また、ACジャパンの支援が

当日は多くのみなさんが醍醐寺にお集まりいただければと思います。また現在、全国協議会の事務局体制を確固たるものとするため体制刷新に取り組みしています。が、早期にこれを実現するべく努力をして参ります。今年、骨髄バンク・さい帯血バンク事業にとって、大きな節目の時となります。1月からは造血幹細胞移植推進法が施行され、法体制の下、新たな枠組みでの再スタートとなりますが、その方向性ははっきりと見据え、事業の中心をボランティアと患者の視線で監視していかなくてはなりません。法整備が真に患者救済に役立つものとしていくのを見守りたいと思います。全国協議会にとっては、他にも財政体制の確立をはじめとして、課題は山積しておりますが、理事会ではこれらに解決策を見いだすため精進してまいりたいと考えています。新年にあたり心を新たにしているところです。どうぞみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

### 新体制作りに尽力

日本さい帯血バンクネットワーク 会長 加藤俊一



謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行されました。今後は、個々のさい帯血バンクが臍帯血供給事業者として、国からの許可を得ることとなり、大きな責任が課せられることとなります。臍帯血供給事業者はその責務として安全で高品質なさい帯血を提供することが必要

となり、各関係機関の皆様との連携を深めて、新たな体制作りに尽力する所存です。これに伴い、初期的な段階におけるさい帯血移植の整備に取り組んできた日本さい帯血バンクネットワークは、本年3月末日をもって事業を終了することとなりました。これまでのさい帯血バンク事業の発展は、ひとえに移植医療機関の関係者のご努力と全国の数多くのボランティアの皆様方のご支援の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。結びに、貴協議会のみならずこの発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

### 女性記者の関心高く

このとりマリン基金会員

全国協議会の新たな基金「このとりマリン基金」について。女性を対象とした基金であることもあり、女性記者からの質問も多く、関心の高さをうかがわせるものでした。基金設立の経緯や助成の具体的内容・条件、公的機関が先行して取り組む「特定不妊治療助成制度」などとのすみ分けについても質問があり、本基金の設立に尽力した大谷顧問や設立・運営の実務を担当した菅副理事長がそれに応えました。



なお、「このとりマリン基金」の普及啓発用としてポスターとリーフレットを作成しました。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

### 心からのご寄付に感謝申し上げます

11月21日～12月20日 (敬称略)

- 株式会社スポットライト 現金 10,000円
- ノーレート麻雀ネットワーク「ニューロン」 現金 149,780円
- 豊島区明るい社会づくりの会 現金 100,000円
- 東京新都心ライオンズクラブ・東京21世紀ライオンズクラブ 現金 250,000円
- 櫻井 康司 現金 20,000円
- 福岡 究 現金 10,000円
- 江上 義紀 現金 10,000円
- 高橋 計凱 現金 30,000円
- 塩谷 圭 現金 1,000円
- 飛田 行康 現金 11,000円
- 石岡 淳 現金 10,000円
- 前田スミ子 現金 3,880円
- 匿名 現金 10,000円
- 匿名 現金 5,000円
- 白血病患者支援基金
- ホームセンターコーナン市川原本店 現金 5,089円
- 嶋津 桂子 現金 3,000円
- 佐藤さち子患者支援基金
- 樋口 勇一 現金 3,000円
- コットンキャップの会 現金 30,000円
- 公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 現金 11,121円
- このとりマリン基金
- 藤倉 光枝 現金 100,000円
- 骨髄バンクを支援する会(いわき) 現金 250,000円

【おわび】第258号の本欄で、「骨髄バンクを支援する会(いわき)様」のお名前をおよび寄付金額を誤ってしまいました。深くおわび申し上げますとともに、今号に改めて掲載させていただきます。

### 障害基礎年金を受給するための要件

社会保険労務士・金井恵美子

公的年金には、老齢給付や遺族給付以外にも、けがや病気で一定程度以上の障害を負った時に年金や一時金が支給される障害給付があります。

比較的重い障害の場合には、国民年金や厚生年金から障害基礎年金や障害厚生年金が支給されます。年金に至らない程度の障害状態であっても、厚生年金から一時金が支給されることもあります。

ここでは、国民年金からの障害基礎年金を受給するための要件をみていきます。

通常、障害基礎年金は、障害の原因となった傷病について、初めて医師の診療を受けた日(初診日)に、国民年金に加入中である場合に支給されます。しかし、国民年金に加入中

②保険料の納付要件を満たしていること(「納付要件」)  
③障害認定日に障害の程度が、障害等級などに当てはまる障害の状態であること(「障害状態要件」)

※障害認定日とは、障害の程度を定める日のことです。初診日から1年6カ月を経過した日またはその期間内に症状が固定した場合はその日をいいます。

一方、20歳前障害の場合には、前記の「加入要件」と「納付要件」を満たす必要がありませんが、次の2つの要件を満たすことが必要です。

①20歳前に初診日があること  
②20歳になった時または障害認定日に障害の程度が、障害等級などに当てはまる障害の状態であること(「障害状態要件」)

### ドナー登録44名 献血は60名にも 3回目のSNOW BANK



3回目を迎えた「SNOW BANK PAY IT FORWARD 2013」(11月16、17日)は昨年以上に集客することができ、献血者は60名、ドナー登録数は44名にも上りました。

このイベントの目的はスノーボードを知らない人にスノーボードのカッコ良さを

3回目を迎えた「SNOW BANK PAY IT FORWARD 2013」(11月16、17日)は昨年以上に集客することができ、献血者は60名、ドナー登録数は44名にも上りました。

骨髄バンクトーカーライブでは自身が慢性白血病患者であるスノーボーダーの帝京大学の血液内科医である白崎先生と白崎先生が移植を担当した患者さんでスノーボーダーの平川さんと、青森から参加してくれたドナーでフリースキーヤーの田中さんにも参加していただき大いに盛り上がりしました。

骨髄移植のリアルな部分を初めて聞く若者たちに影響を与えていたようで良かったです。このイベントにたくさんの方々に協力していただき、本当にありがとうございました。



理事 荒井善正

### 再びのお務めです

今期で2期目、再任の荒井善正です。僕は慢性活動性EBウイルス感染症を患い、5年前に骨髄バンクを介して骨髄移植を受けることができて命を救われました。「兄と骨髄の型が一致せずスタート地点にも立つこともできないのか?」と思っていた時に骨髄バンクの存在を知り「まだ聞える」と勇気を持ってティアの皆様の長年の活動のお

この2年間は理事を務めさせていただきましたが、それぞれ様々な得意分野がありそれぞれを生かしていくことが最も効率良く患者さんの為の骨髄バンク創りを可能にすると思えました。2期目も僕が得意な若い世代や骨髄バンクに興味がない人々に骨髄バンクを伝える普及啓発活動に力を入れていきたいと思っています。その結果、骨髄移植を必要としている患者さんがドナーに困らない社会を創りたいと思います。



級の障害状態は、国民年金法施行令別表で定められています。さらに、障害の程度を認定するための具体的な基準として「国民年金・厚生年金保険障害認定基準」があります。

の助けを借りる必要はないが、日常生活がとて困難な状態、血液・造血管疾患の場合は、一般検査、特殊検査の検査成績などを参考として、認定時の具体的な日常生活状況等を把握して、総合的に認定することとされています。

全国の協議会主催の「患者サロン」第2回は、「障害年金」をテーマに12月23日(祝)開かれ、金井さんを招いての「勉強会」となりました。大切なテーマとあって、患者さんら約15人の参加があり、質疑も盛んでした。

したところ、命の大切さや生きることの喜びを自分の思いの込められた言葉で表現し、会場からは感動の拍手が起こりました。これからのこの活動を通して、たくさんの子どものために命について考え、生きることの喜びを味わってほしいと願っています。(埼玉の会・高土慈子)

青森県弘前市 体験者の話に感動 コサートも心に響く 市民講座「骨髄移植を知ろう」

11月9日(土)、弘前大学において、全国協議会ほかの共催で第15回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」が開催されました。今回は、第一部で「がんと食事について」管理栄養士さんらがお話しくださいました。

私も少しでもお力になればと思い千葉の会の活動をお手伝いさせていただくようになり、個人的にも若者に骨髄バンクを普及啓発するイベント「SNOW BANK PAY IT FORWARD」(スノーバンク)を立ち上げ、全国各地の皆様のお力を借りながら、これから移植を受ける患者さんが勇気を持って社会創りを目指し活動をしてきました。

この2年間は理事を務めさせていただきましたが、それぞれ様々な得意分野がありそれぞれを生かしていくことが最も効率良く患者さんの為の骨髄バンク創りを可能にすると思えました。2期目も僕が得意な若い世代や骨髄バンクに興味がない人々に骨髄バンクを伝える普及啓発活動に力を入れていきたいと思っています。その結果、骨髄移植を必要としている患者さんがドナーに困らない社会を創りたいと思います。

12月15日(日)、彩の国すこやかプラザで、第22回「いのちを考える」読書感想文コンクール表彰式が行われました。今年度は課題図書を一新して応募を呼びかけた結果、101作品(小学生40・中学生61)が寄せられ、どの作品からも、本を通して命や生きることに真剣に考えている様子が伝わってきました。



また、国際ソロプチミスト姫路様のご協力で会場内に募金箱が回り、多くの方に募金をしていただきました。募金の一部は「白血病患者支援募金箱」に寄付しました。(濱田恵子)

課題図書新101作品もいのちを考える読書感想文コンクールの表彰式

「一矢君を救う会」が12月8日(日)、那覇市内で骨髄バンクドナー登録を呼びかける約100名が参加するイベントを開催しました。会場の県庁前



100名が呼びかけ 県庁前で14名が登録 一矢君を救う会イベント

姫路地区骨髄バンク推進センターでは今年も12月21日(土)に「骨髄バンク支援クリスマスコンサート」を開催しました。兵庫県立香取高等学校と姫路市立飾磨東中学校の吹奏楽部が、クリスマスソングや、1970年代の曲を演奏し、それに合わせて先生が歌われたり、懐かしいウルトラマンソングと若さあふれる素晴らしい雰囲気会場いっぱいになりました。

中・高吹奏楽部が演奏 会場内に募金箱も 今年もクリスマスコンサート

骨髄バンクの最新情報をお知らせする — 骨髄バンク NOW (財団マンスリーJMOP (12月13日発行)より抜粋)

◆日本骨髄バンクの現状(平成25年11月末現在)	累計数
ドナー登録者数	3,419
患者登録者数	282
移植例数	117
11月の区分別ドナー登録者数	献血ルーム / 774人、献血併行型集団登録会 / 1,739人、集団登録会 / 66人、その他 / 52人
11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)	10代 3,065人 / 20代 71,794人 / 30代 151,569人 / 40代 170,363人 / 50代 43,578人
11月の20歳未満の登録者数	223人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。平成24年7月より集計方法が変更されました。

安慶名一矢君(19歳)は高校3年生のとき急性リンパ性白血病を発症し、骨髄移植が必要と診断されましたが家族にも骨髄バンクにもドナーが見つかりませんでした。配布したチラシには「一矢以外にもたくさんの方が骨髄移植を必要としています。そこで一矢とそなたたちが元気に社会復帰できるように、骨髄バンクへのドナー登録の呼び掛けをしています」と記されています。沖縄県骨髄バンクを支援する会では説明員6名を献血ルームに配置し、14名の登録を受け付けました。

